

【専門科目領域/専門基礎科目群/健康支援と社会保障】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健学	NSF21_002	必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
森川 三郎	417	s.morikawa	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	心身の健康に影響を与える要因は時代とともに著しく変化している。とりわけ自然災害、感染症、高度情報社会への対応、家族・学校・職場の変化への対応は、精神の健康を維持・増進するための重要な課題となっている。本学の精神看護関連授業では、精神看護学概論・精神看護援助論Ⅰ及びⅡ・精神看護学実習によって、主に精神障害に対する治療・看護を学習する。この精神保健学ではその前段階として、人間の心・精神とは何かを考え、生涯発達の見点で発達課題や発達の危機を学んだ上で、現状の家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスの実情を理解すると共に、精神医療の歴史を概観して、精神健康の増進、精神障害の予防、早期発見、支援の方法などについて学んでいく。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	学習効果をあげるために、各回の学習内容の理解の確認及び主題に関する主観的省察が必要なので、「理解の内容」及び各回の主題に関する自らの「学びの内容」についてリアクションペーパーによって言語化することが重要である。				
教科書	看護学生のための精神看護学概論第3版/編著:東中須恵子/大学教育出版/2021				
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護の基礎 第6版 /著:武井麻子 /医学書院 /2021 系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護の展開 第6版 /著:武井麻子 /医学書院 /2021 [精神看護学概論・援助論Ⅰ・援助論Ⅱ・実習において上記の2冊は購入予定]				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	人間の心・精神・健康について考えることができる。		HSU(1)~(3),NS(1)(4)		
②	人生各期における発達段階、発達課題、発達危機について説明できる。		HSU(1)~(3),NS(1)(4)		
③	ストレス及び危機理論について説明できる。		HSU(5), NS(1)(4)		
④	現在の社会的状況を踏まえて、家庭・学校・職場における心の健康を説明できる。		HSU(5), NS(1)(4)		
⑤	家庭・学校・職場における精神障害とメンタルヘルスについて説明できる。		HSU(5), NS(1)(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	テキスト第2章:精神の健康の捉え方、具体的には、「精神」、「健康」、「人間の包括的な捉え方」、「精神の健康を捉える概念」について学ぶ。	講義	予習として教科書第1章 p1~15及び第2章 p16~30を読んで授業に臨むこと。	2	
2	テキスト第3章:精神の構造と機能、具体的には、「精神の構造」、「エリクソン・ピアジェ・マラーの発達理論」、「対象関係論」について学ぶ。	講義	予習として教科書第3章 p31~47を読んで授業に臨むこと。	4	
3	テキスト第4章:心の発達と精神の健康、具体的には「乳児期から老年期に至るまでの各期の発達課題と発達危機」について学ぶ。	講義	予習として教科書第4章 p48~58を読んで授業に臨むこと。	4	
4	テキスト第5章:ストレスと精神の健康、具体的には、「ストレス」、「危機理論」、「ストレスと危機を持つ人への看護」について学ぶ。	講義	予習として教科書第5章 p59~73を読んで授業に臨むこと。	4	
5	家庭・家族における精神保健、具体的にはテキスト第6章の「家庭環境と心の健康」と、第7章の「家族とメンタルヘルス」について学ぶ。	講義	予習として教科書第6章 p74~82と第7章 p99~111を読んで授業に臨むこと。	4	
6	学校における精神保健、具体的にはテキスト第6章の「教育の場と心の健康」と、第7章の「教育の場とメンタルヘルス」について学ぶ。	講義	予習として教科書第6章 p82~90と第7章 p111~119を読んで授業に臨むこと。	4	
7	職場における精神保健、具体的にはテキスト第6章の「職場と心の健康」と、第7章の「職場とメンタルヘルス」について学ぶ。	講義	予習として教科書第6章 p90~98と第7章 p119~128を読んで授業に臨むこと。	4	
8	テキスト第8章:1.欧米の精神保健医療の歴史、2.日本の精神保健医療の歴史、3.精神障害者と法的制度について学ぶ。	講義	予習として教科書第8章 P129~P150を読んで授業に臨むこと。	4	
試験	筆記試験				

【専門科目領域/専門基礎科目群/健康支援と社会保障】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	授業終了後に定期試験を実施して評価する。試験内容は、授業全般を通じた精神保健に関する基本的な知識の理解のために、択一問題及び正誤問題を出题する。また総合的な理解度を確認するために、択一・正誤問題で扱わなかった内容について記述問題を出题する。				試験採点後に、模範解答と試験結果に基づいた分析結果をメール等で学生に配信する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	精神科臨床看護師20年(+精神科看護教員20年)の経験を有する。						
実践的授業の内容	これまでに培った臨床経験・教育経験を講義の場で活かすように、臨床や教育現場で経験したこと等を伝え、学生がよりリアリティを感じ理解を深められるように工夫しながら講義を行う。						
その他	<input type="checkbox"/> 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 <input type="checkbox"/> 授業時間中に生じた疑問・質問は、その段階で直接教員に質問すること。それ以外は、授業終了後かリアクションペーパーによって行うこととして、全体に関係する内容については次回の授業開始時に回答する。 <input type="checkbox"/> 今後の社会情勢等によって再度シラバスの変更の可能性がある。						